



虫刺されに注意

夏は軽装で外に出ることも多いため「虫刺され」に気をつけたい季節です。

◎虫刺されによる主な症状は、【かゆみ】と【痛み】

かゆみ: 虫が刺した際に皮膚に注入する唾液や毒に対するアレルギー反応によって起こります。

痛み: 刺されることによる物理的な痛みと、注入される毒によって起こる痛みが複合して起こります。

	特徴など	主な症状
蚊	家の周辺、山野など、どこにでもいる。屋外ではヒトスジシマカ、室内ではアカイエカが多い。吸血するのはメス。通常は、手足、顔などの露出部を刺す。	かゆみと赤み。刺されてすぐに出るものと、1〜2日後の出るものがある。
ハチ	刺すハチの代表としては、アシナガバチやスズメバチ。庭木の手入れや農作業、ハイキングなどの際に刺されることが多い。	激しく痛み、赤く腫れる。初めて刺された場合は、通常1日以内に治まるが、2度目以降はアレルギー反応を起こし、重症化することもある。
ダニ	室内ではネズミに寄生するイエダニ、野外ではマダニが多い。わき腹や太ももを刺すことが多い。	かゆみの強い赤いブツブツができる。
ノミ	猫に寄生するネコノミによる被害が多い。野外では、地面から足元に飛びついて吸血するため、スネ等、足が刺されることが多い。室内では腕や体も刺される。	赤いブツブツができる。しばしば水ぶくれになる。
ブユ	川や溪流に多い。朝夕に活動することが多く、スネを刺されることが多い。	半日くらいしてから赤く腫れ、次第に激しいかゆみを生じる。赤いしこりが長く残る場合もある。
イラガ	柿の葉の裏側に多い。	幼虫(毛虫)に触ると激痛が生じる。
チャドクガ	椿やサザンカなどに多い。	幼虫(毛虫)に触ると広範囲が痒くなる。

※症状の現れ方には個人差があり、刺された人の体質や刺された頻度により大きく変わります

◎虫に刺された時はどうしたらいいの？

- かかないでください。かいてしまうと傷口から細菌に感染することがあり、治りも悪くなります。
- まず、刺された場所を流水でよく洗ってから、水や氷で冷やしてください。(蜂の毒針が刺さった場合はセロハンテープで取り除いてから洗う)。その後、かかないために、衣服や「かゆみ止めパッチ」などで覆うとよいでしょう。
- 症状が軽い場合は、市販のかゆみ止め薬を塗って下さい。
(右の表を参照)
- 痛みや腫れがひどければ、皮膚科を受診してください。
(ステロイド、かゆみ止め(抗ヒスタミン薬など)、抗生物質などの薬が処方されることが多い)。
- ハチに刺された場合(特に2度目以降)に、じんましん、腹痛、気分が悪いなどの全身の症状が現れた場合は、直ちに救急車を呼んでください。

成分	市販薬名
かゆみ止め	ムヒS(クリーム) ムヒパッチA(貼付剤)
ステロイド、かゆみ止め	液体ムヒS2a(液剤) オイラックスA(クリーム)
ステロイド、抗生物質	フルコートF(クリーム)

◎虫刺されの予防法

- 野山など虫が多そうな場所に行く場合は、なるべく露出の少ない服装を心がける。
- 蚊やハチは黒い色を好むので、黒色の服装は避け、明るい色を選びましょう。
- 蚊に対しては、虫除けスプレーや塗り薬をあらかじめ使用して下さい。
- ハチは、香の強い香水や化粧品、整髪料などに誘き寄せられる性質があるので注意して下さい。



(参考文献) 社団法人日本皮膚科学会: 皮膚科 Q&A 虫さされ